

総 括 事 項

1. 名称・所在地

高知県水産試験場

高知県須崎市浦ノ内灰方1153-23

電 話：088-856-1175

E mail：040409@ken.pref.kochi.lg.jp

F A X：088-856-1177

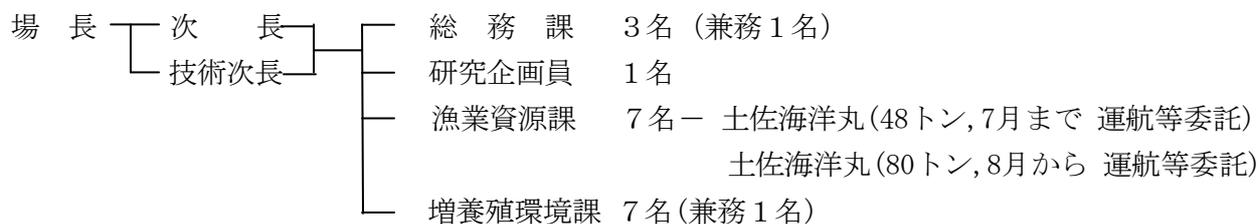
H P：http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/040409/

交通機関：JR 高知駅（高知市）から高知県交通バス宇佐行き乗車、宇佐終点から徒歩 10 分

2. 沿 革

明治34年	県庁内に設立
35年	須崎町に新庁舎建設し移転
大正9年	講習部新設
昭和元年	無線電信陸上局新設
19年	講習部廃止
21年	南海地震により庁舎一部破損、備品類大部分を流失
29年	15号台風により庁舎全壊
30年	庁舎新築
43年	幡多郡大月町古満目に実験室設置
46年4月	須崎市浦ノ内灰方に庁舎新築移転
46年4月	大月町古満目に試験地設置
48年4月	大月町古満目に実験所設置
53年3月	土佐市宇佐町竜に無線局移転
57年4月	無線局業務を須崎無線漁業協同組合へ移管
58年1月	海洋開発調査船「土佐丸」竣工
58年4月	栽培漁業センターの設置に伴い古満目実験所を廃止、大月町に貸与
61年3月	海洋漁業調査船「土佐海洋丸」竣工
61年7月	皇太子殿下下行啓
平成3年2月	海洋漁業センター新築
9年4月	機構改革により、5課（科）体制が4課（科）体制となる
10年4月	機構改革により、産業技術委員会事務局へ移管
15年12月	海洋開発調査船「土佐丸」廃船
17年4月	機構改革により、4課（科）体制が3課（部）体制となる
17年9月	横浪林海研究交流センターの設置
19年4月	機構改革により、産業技術部に組織替え及び3課（部）体制が3課体制となる
20年7月	海洋漁業調査船「土佐海洋丸」廃船
20年9月	新海洋漁業調査船「土佐海洋丸」竣工

3. 平成20年度機構及び人員



4. 平成20年度職員一覧表

場長 山本 貞夫
 次長 今井 一博
 技術次長 松浦 秀俊

所 属	職 名	職 種	氏 名	備 考
総 務 課	次長兼総務課長	行政職	今 井 一 博	
	主 任	行政職	寶 藏 正	
	主 事	行政職	宮 地 恵	
研究企画員		研究職	柳 川 晋 一	
漁業資源課	漁業資源課長	研究職	田ノ本 明 彦	
	チーフ	研究職	新 谷 淑 生	
	主任研究員	研究職	浦 吉 徳	
	主任研究員	研究職	山 本 順	
	主任研究員	研究職	大 河 俊 之	
	主任研究員	研究職	梶 達 也	
	研 究 員	研究職	山 下 慶 太 郎	
増養殖環境課	技術次長兼増養殖環境課長	研究職	松 浦 秀 俊	
	チーフ	研究職	明 神 寿 彦	
	主任研究員	研究職	荻 田 淑 彦	
	主任研究員	研究職	黒 原 健 朗	
	主任研究員	研究職	林 芳 弘	
	主任研究員	研究職	田 井 野 清 也	
	主任研究員	研究職	西 村 徳 子	

5. 平成20年度当初予算

(単位：千円)

事業名	予算額	うち	
		国庫 支出金	受託 事業収入
水産試験場管理運営費	79,844		
管理運営・共通経費	15,771		
調査船運航事業費	64,073		
水産試験場施設整備費	388		
水産業試験研究費	30,082	855	11,667
地域レベルでの漁海況情報の提供	2,896	855	
資源評価調査委託事業	8,167		8,167
日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業	2,100		2,100
ブリ資源有効利用に向けた回遊履歴の解明	1,000		1,000
里海づくりを目指した藻場再生手法の確立	820		
メジカ煮汁濃縮液を用いた養魚用飼料の開発	555		
水産試験場技術支援事業費	2,789		400
アウトソーシング推進関連事業	11,755		
科学技術共同研究費	3,842		
大学等連携促進研究			
マダイのエドワジェラ症に有効なワクチン開発	1,054		
新調査船による水産・海洋資源の開発調査と持続的利用推進事業			
沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査	1,634		
浮魚礁モニタリング調査事業	1,154		
合 計	114,156	855	11,667

<参考>

付表 水産試験場当初予算額の推移

年度	金額 (千円)	対前年比 (%)	年度	金額 (千円)	対前年比 (%)
平成元	223,770	101.2	11	206,537	85.7
2	266,484	119.1	12	216,315	104.7
3	260,752	97.8	13	215,814	99.8
4	255,221	97.9	14	206,028	95.5
5	249,316	97.7	15	185,881	90.2
6	255,431	102.5	16	141,467	76.1
7	245,621	96.2	17	141,753	100.2
8	258,425	105.2	18	128,976	91.0
9	259,376	100.4	19	131,877	102.2
10	240,965	92.9	20	114,156	88.5

6 成果の広報

1) 学習会、講習会の実績

年月日	講演者	講演内容	会議、研修会等名称	開催場所	対象機関・組織
平成20年4月19日	梶 達也、 田ノ本明彦	ブリはどこから来て、どこへ行くのか？	以布利、窪津合同役員会	土佐清水市	以布利、窪津大敷組合
平成20年4月23日	西村徳子	H120年のコウロヘ、イニカM発生状況と野見湾の赤潮	大谷漁協タイ部会	須崎市 大谷漁協	養殖業者
平成20年5月17日	梶 達也	瀬付きブリと回遊ブリはいつ、どこを泳いで定置網に入るのか？	幡多定置漁業振興会	土佐清水市	幡多地区大敷組合長、先長
平成20年5月28日	西村徳子	何故マダいの餌食いが悪くなったのか？	大谷漁協タイ部会	須崎市 大谷漁協	養殖業者
平成20年6月19日	西村徳子	湾央ブリと指導所測定による観測結果の差	大谷漁協タイ部会	大谷漁協	養殖業者
平成20年6月25日	柳川晋一	高知県の漁業について	平成20年度高知県漁協女性部幹部研修会	高知市 水産会館	高知県漁協女性部
平成20年7月4日	大河俊之	最近のキンメダイ研究からわかったこと	平成20年度芸東地区沿岸漁業協議会および芸東地区漁村青年協議会通常総会	JF高知室戸岬統括支所	芸東地区漁業者、漁協関係者
平成20年7月4日	田ノ本明彦	カツオの生態	都市と漁村の交流 in 枝川	いの町立	枝川小学校
平成20年7月15日	柳川晋一	カツオの生態	都市と漁村の交流 in 伊野南	いの町立	伊野南小学校
平成20年8月9日	田井野清也	里海づくりと藻場の再生	高新文化教室	須崎市池ノ浦	一般市民
平成20年8月21日	黒原健朗	白点虫のサンプリングについて	大谷漁協タイ部会	須崎市 大谷漁協	養殖業者
平成20年8月21日	松浦秀俊	ドクサバフグに注意	大谷漁協タイ部会	須崎市 大谷漁協	養殖業者
平成20年8月24日	田井野清也	柏島周辺海域の藻場の変遷と里海づくり	土佐の海の環境学：柏島の海から考える	大月町柏島	高知大学生・大月町民
平成20年9月5日	梶 達也	平成20年下半期の漁海況予報	すくも湾漁協まき網部会	宿毛市 宿毛漁業指導所 高知市	すくも湾まき網部会
平成20年9月9日	柳川晋一	カツオの生態	都市と漁村の交流 in 一宮東	高知市立	一宮東小学校
平成20年9月18日	柳川晋一	カツオの生態	都市と漁村の交流 in 大津	高知市	大津小学校
平成20年10月9日	柳川晋一	カツオの生態	都市と漁村の交流 in 三里	高知市	高知市立 三里小学校
平成20年10月16日	渡辺 貢	「カンパチ養殖における適正給餌率及び頻度について」等	養殖勉強会	須崎市 大谷漁協	養殖業者

1) 学習会、講習会の実績 (つづき)

年 月 日	講 演 者	講 演 内 容	会 議、研 修 会 等 名 称	開 催 場 所	対 象 機 関・組 織
平成20年10月16日	黒原健朗	白点虫の対策について	養殖勉強会	須崎市 大谷漁協	養殖業者
平成20年10月30日	梶 達也	カツオの生態	都市と漁村の交流 in 神田	高知市	高知市立 神田小学校
平成21年1月8日	梶 達也	高知県海域における黒潮の流れ方とシラス魚の関係	和歌山県有田地区漁業青年協議会視察研修	高知県水産試験場 海洋漁業センター	有田地区漁業青年協議会
平成21年1月9日	梶 達也	平成21年上半年の漁海況予報	すくも湾漁協まき網部会	宿毛市 宿毛漁業指導所	すくも湾漁協まき網部会
平成21年1月29日	西村徳子	野見湾の赤潮について	養殖勉強会	野見コミュニティーセンター	養殖業者
平成21年2月13日	梶 達也	ブリはいつ、どこを、どのように泳いで定置網に入るのか?	平成20年度(第47回)高知県定置研修会	高知市	高知県下大敷組合員
平成21年2月13日	梶 達也	平成21年上半年におけるアジ、サバ、イワシ類の漁況予報と海況予報	平成20年度(第47回)高知県定置研修会	高知市	高知県下大敷組合員
平成21年3月17日	林 芳弘	浦ノ内湾における赤潮について	養殖講習会	高知県水産試験場 海洋漁業センター	養殖業者
平成21年3月17日	黒原健朗	白点虫対策と魚病の発生状況について	養殖講習会	高知県水産試験場 海洋漁業センター	養殖業者
平成21年3月25日	黒原健朗、 萩田淑彦	白点虫寄生検査結果について	大谷漁協タイ部会	須崎市 大谷漁協	養殖業者

2) 学会、研究会での発表

年月日	講演者	演題	学会、研究会等名称	開催場所
平成20年6月21日	田井野清也*、津野健太郎	漁業者による藻場の再生	第7回日本応用藻類学会	東京都港区（東京海洋大学）
平成20年8月1日	田井野清也	Different effects on seaweed succession after sea urchin removal at several coastal waters in Tosa Bay, southern Japan	東アジア磯焼け国際シンポジウム：Reduction of Seaweeds and Isoyake Recovery Technique in East Asia	東京都港区（東京海洋大学）
平成20年9月11日	大河 俊之	高知県におけるヒラメ稚魚の摂餌生態	黒潮の資源、海洋研究会	高知市グリーン会館
平成20年9月11日	新谷淑生	高知県西部海域のマサバ若魚の加入について	中央ブロッコック資源・海洋研究会	高知市グリーン会館
平成20年9月20～23日	林芳弘	高知県仁淀汽水域におけるアユ稚魚の出現と生息環境	日本魚類学会	松山市
平成20年9月27日	平岡雅規、田中幸記、田井野清也*	土佐湾周辺の海藻植生の変遷	日本植物学会第72回大会（高知）公開講演会：黒潮が育む高知の自然と生物	高知大学
平成20年11月21日	田井野清也	須崎市池ノ浦地先におけるトゲモク群落の消失	平成20年度瀬戸内海ブロッコック水産業関係研究開発推進会議生産環境部会・栽培資源部会合同部会藻類情報交換会	広島県広島市
平成21年1月22日	田井野清也	ウニ類除去による藻場の再生	平成20年度横波研究交流セミナー成果報告会	池ノ浦漁業協同組合
平成21年2月19日	黒原健朝	高知県中央部漁場におけるカンパチおよびマダイの白点虫対策	南中九州・西四国水族防疫会議	鹿児島県指宿市岩本 鹿児島県水産技術開発センター
平成21年3月4日	森田貴己、丹羽健太郎、藤本實、葛西広海、山田東也、西内耕、坂本竜哉、牛室和一郎、田井野清也*、林芳弘*ほか	褐藻類中のヨウ素-131濃度について	第10回環境放射能研究会	茨城県つくば市
平成21年3月28日	黒原健朝*、川合研兒	マダイにおける <i>Edwardsiella tarda</i> の実験感染	平成21年度日本水産学会春季大会	東京都港区（東京海洋大学）
平成21年3月28日	林芳弘*、田井野清也*、大河俊之*、松浦秀俊*、大森湯浅航平、小高純平、糸井史朗、高井則之、野田勉、秋元清治、明神寿彦*ほか	高知県仁淀川河口域における環境モニタリング	平成21年度日本水産学会春季大会	東京都港区（東京海洋大学）
平成21年3月29日		日本沿岸海域におけるムツ風魚類分布の状況	平成21年度日本水産学会春季大会	東京都港区（東京海洋大学）
平成21年3月27、28日	田井野清也*、田中幸記・原口展子・平岡雅規	高知県中西部海域における藻場の分布状況	日本藻類学会第33回大会	沖縄県西原町（琉球大学）
平成21年3月27、28日	田中幸記、田井野清也*、原口展子、渡邊美穂、平岡雅林芳弘	高知県で分布を広げるフタエモク <i>Sargassum dupllicatum</i> の生育環境	日本藻類学会第33回大会	沖縄県西原町（琉球大学）
平成21年3月27～31日	林芳弘	森と海のつながり22 高知県仁淀川河口域における環境モニタリング	日本水産学会	東京都

講演者が複数名の発表のうち、高知県水産試験場職員は、氏名の後に*を記した。

3) 成果報告、パネル展示等

年月日	講演者等	講演内容	学会、研究会等名称	開催場所
平成21年1月25日	林芳弘	なせ浦ノ内湾でアサリが減っているのか? ~今までの調査からわかったこと~	産業技術部主催 研究成果展示会	イオン高知
平成21年1月25日	荻田淑彦	スラリアーアイスの利用	産業技術部主催 研究成果展示会	イオン高知
平成21年1月25日	田ノ本明彦	漁業調査船「土佐海洋丸」	産業技術部主催 研究成果展示会	イオン高知
平成21年3月28日	林 芳弘、田井野清也、大河俊之、松浦秀俊	高知県仁淀川汽水域におけるアユ稚魚の出頭と生息環境	2008年度日本魚類学会年会ポスター発表	東京郵港区 (東京海洋大学)

4) 投稿論文・執筆等

発行年月	著者	題 目	投稿学会・書籍名等	備考
平成20年4月	田井野清也	黒潮の海で始まったウニ除去ー高知県ー	「磯焼けを起こすウニー生態・利用から藻場回復まで」(藤田大介・町口裕二・桑原久美編著)成山堂書店、東京、132-137.	
平成20年10月	前田経雄、大河俊之*	ヒラメの初期生活史の多様性と個体群構造	田中克・田川正朋・中山耕至編、稚魚学ー多様な生理生態を探るー、生物研究社、東京、p122-130	
平成20年10月	梶達也*、田中庸介	クロマグロの初期生活史	田中克・田川正朋・中山耕至編、稚魚学ー多様な生理生態を探るー、生物研究社、東京、p239-249, 2008	
平成20年10月	梶達也	ハガツオ仔魚における特異な消化系の発達と魚食性の発現	田中克・田川正朋・中山耕至編、稚魚学ー多様な生理生態を探るー、生物研究社、東京、p257-263, 2008	
平成20年12月	黒原健朗*、木村喜洋、関口洋介、川合研児	エドワジエラ症の感染方法がマダイ <i>Pagrus major</i> 体内の原因菌の動態に及ぼす影響	水産増殖、第56巻、第4号、p551-558、2008	
平成21年3月	柳川晋一*、渡邊精一	四国産タチウオ <i>Trichiurus japonicus</i> とテンジクタチ <i>T. sp. 2</i> の形態質比較による簡易判別法	日本水産学会誌、第75巻(2)、p213-218、2009	
平成21年3月	大河俊之*、須賀悠、関伸吾	高知県浅海砂浜域におけるヒラメ <i>Paralichthys olivaceus</i> 稚魚の個体生態	黒潮の資源海洋研究 第10号 p71-78, 2009	
平成21年3月	新谷淑生	高知県西部海域の定置網で漁獲されたマサバから推定される若魚の加入動向	黒潮の資源海洋研究、第10号、p99-104、2009	
平成21年3月	阪地英男、山本順*、原田誠	太平洋外海域における小型クルマエビ科の減少と種組成の変化	黒潮の資源海洋研究、第10号、p111-117、2009	

著者が複数名場合は、高知県水産試験場職員は、氏名の後に*を記した。

総括事項

7 研究会、シンポジウム等の開催

年 月 日	イ ベ ン ト 名 称	場 所	人 数
平成21年3月19日	水産技術報告会	海洋漁業センター	25名

8 研修・見学等の受け入れ

1) 水産試験場

年 月 日	受 け 入 れ 者	人 数
平成20年8月8日	企業実習 岡豊高校1年	2名 (引率1名含)
平成20年10月17日	高知小学校5年生	31名 (引率2名含)
平成20年1月8日	和歌山県有田地区漁協青年協議会	7名 (引率1名含)
平成20年10月22日	JICA研修(栽培漁業コース)	6名 (引率1名含)
合計		191名

2) 横浪林海研究交流センター

年 月 日	受 け 入 れ 者 (機関・組織名等)	人 数
平成20年4月1日 ～平成21年3月31日	高知大学大学院黒潮圏総合科学科	延べ260名
平成20年7月5日 ～11日	高知大学上記区研究部資源科学系農学部門「横浪半島の亜熱帯林における植物と昆虫の多様性・相互作用の学習」	延べ31名
平成20年7月25日	京都大学 フィールド科研舞鶴水産実験所「両測回遊性種ミズレンマエビと陸封種ミナミヌマエビにける遺伝的分化の比較」	2名
平成20年7月26日	高知大学農学部1回生(シュノーケリング訓練を主体としたフィールドサイエンス実習)	30名
平成20年7月31日	大阪府立高津高等学校(同上)	20名
平成20年8月9日 ～10日	高知新聞社文化出版局 自然に学ぶ森里海連環学「海の中野森里海連環」野外教室	延べ30名
平成20年10月20日 ～23日	京都大学 フィールド科研瀬戸臨海実験所「イシサンゴ(主にオオトゲサンゴ科及びヒラフキサンゴ科)の分布頻度調査	5名
平成20年10月30日	高知県立牧野植物園 タイミインタチバナ(ヤブコウジ科)の成分解析研	2名
合計		380名

3) 海洋漁業調査船 土佐海洋丸

年 月 日	受 け 入 れ 者 (機関・組織名等)	人 数
平成20年11月7日	室戸地区沿岸漁業協議会、室戸小学校等	85名